

News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2020年度 1号 (NO.9)

Contents

- ◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要 1
- ◆ 二松学舎憲章 4

◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要

2019年12月～2020年1月にかけて、本学の1年次・3年次・4年次生を対象として、学生の実態・満足度調査を実施しました。

調査は、大学生活全般に関する大項目10の設問における5段階等の選択回答（例：「頻繁にした」～「全くしなかった」）と3項目の自由記述で答えてもらいました。

▶本調査の実施目的

- ①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

調査回答数は、下記のようになります。

▼回答数

	文学部			国際政治経済学部		その他	合計
	国文学科	中国文学科	都市文化デザイン学科	国際政治経済学科	国際経営学科		
1年	253	121	38	148	51	23	634(83.4%)
3年	227	84	35	187	—	3	536(78.9%)
4年	230	110	—	177	—	5	522(71.2%)
全体	710	315	73	512	51	31	1,692(77.9%)

(回答率：回答数／在籍者数)

●学生生活の充実度について

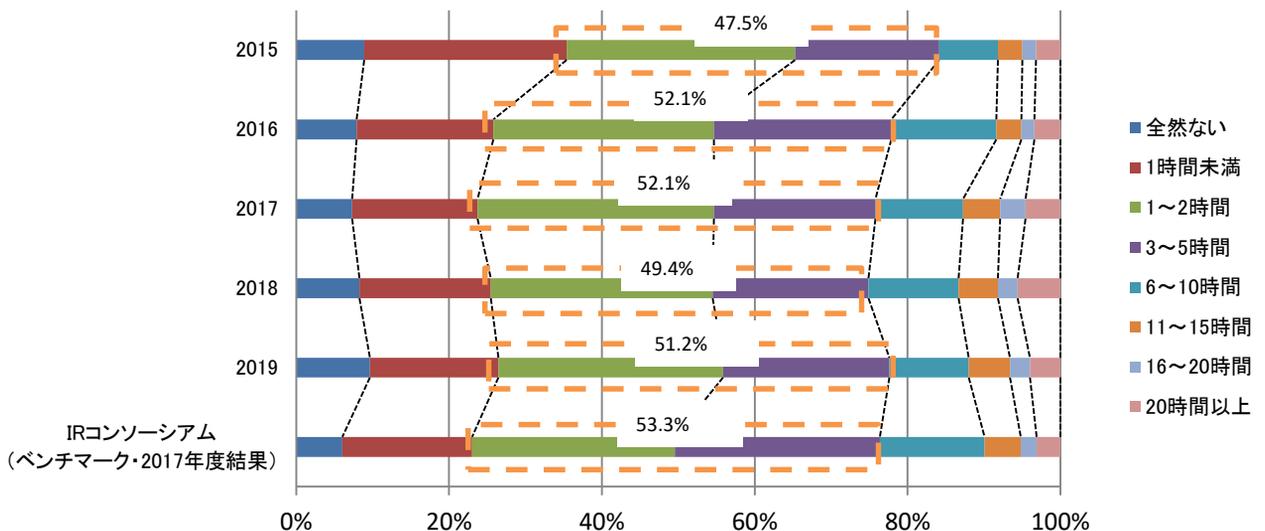
▼学生生活は充実していますか（『充実している』・『まあまあ充実している』と回答している割合）。

	1年次生（2019年度入学生）	3年次生（2017年度入学生）	4年次生（2016年度入学生）
国文学科	84.0%	85.9%	91.5%
中国文学科	83.2%	87.5%	88.3%
都市文化デザイン学科	80.0%	82.4%	—
国際政治経済学科	78.7%	90.9%	84.8%
国際政治経営学科	86.4%	—	—
全体	82.6%	87.7%	88.6%
IRコンソーシアム (ベンチマーク・2017年度結果)	84.1%	85.5%	—

- いずれの学科も、4年次生では、80%以上の学生が充実感を持って学生生活を送っていることが確認できます。特に、国文学科・中国文学科では、総じて高い90%前後の満足度を示しています。
- 本学の教育・研究活動が納得感を以って受け容れられていることが確認できます。

●学生の学習時間について

▼1週間あたり、「授業時間以外に授業課題、準備学習・復習をする」ことにどの程度の時間を費やしましたか（1年次+3年次生の回答の割合（合計））。

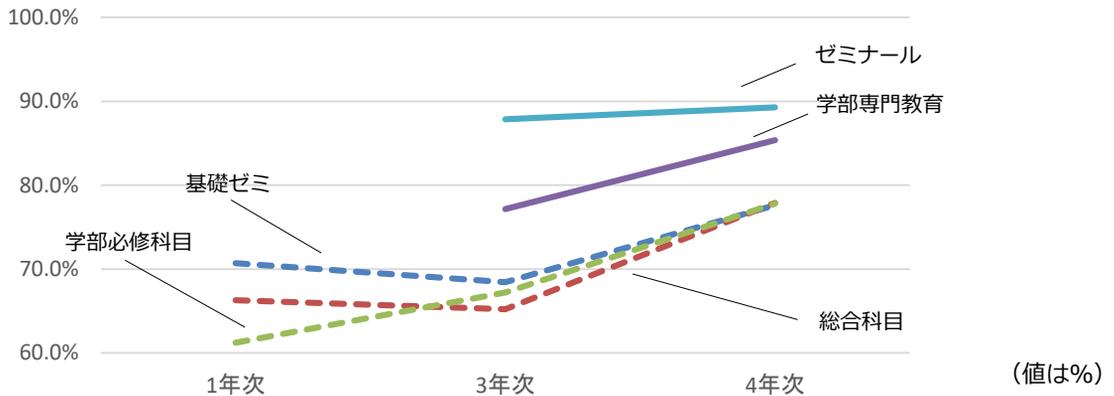


- 課外学習時間は、ベンチマークとしているIRコンソーシアム構成大学平均（1時間未満：23.0%）に比べて、やや少なくなっています。ただ、概ね半数が1~5時間の課外学習を行っていることが確認できます。
- 2020年度から、毎回の授業における課外学修内容や目安となる学修時間について、具体的にシラバスに記載されることで、より主体的な学修を促す仕組みが導入されています。

●2016年度入学生の教育内容等満足度の経年変化

▶ 本学では、「学生の実態・満足度調査」を2015年度から実施しています。2016年度に1年次生として入学した学生が、2019年度には4年次生となり、この3月に卒業を迎えました。2016年度入学生の経年変化として、入学後の学生の修学実態を把握するとともに、大学の教育成果や、本学の抱える課題等の検証材料として、各種委員会等で報告・検討し、教育改善に活かしています。

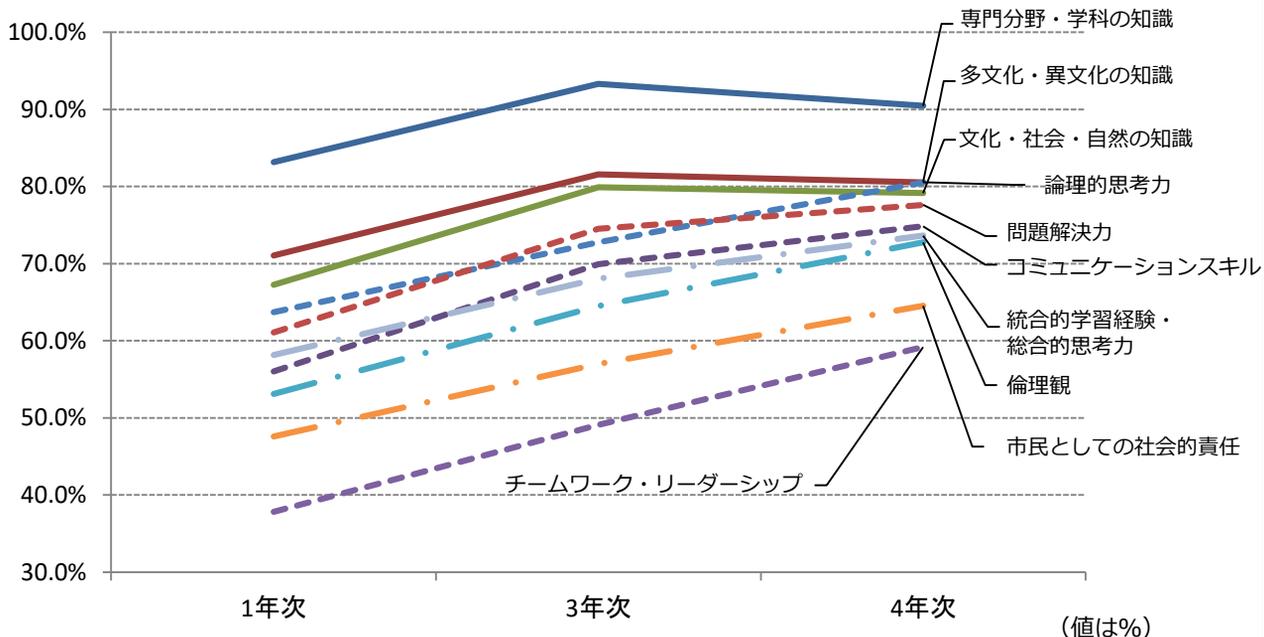
▼教育内容等にどの程度満足していますか（『とても満足』・『満足』と回答している割合）。



▶ ゼミナールの指導内容や、学部専門教育の授業内容に、満足感を持っていることが確認できます。また、総合科目・学部必修科目についても、総じて右肩上がりとなっており、適切な教育課程編成が実現されていると確認できます。

●2016年度入学生の学修成果の変化

▼入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか（『大きく増えた』・『増えた』と回答している割合）。



▶ 学士力項目の能力等が増えたと思うかの自己判断を聞いたものでは、知識・理解はゼミナール中心の4年次生で「増えた」とする割合がやや低下しているものの、コミュニケーションスキル、論理的思考力、問題解決力、チームワーク・リーダーシップ、統一的学習経験・創造的思考力といった項目が右肩上がりの成長を示していることが確認できます。

●入学して『誇りに思うこと』（自由記述）

➤ 『誇りに思うこと』を自由に記述してもらった問いで多く記入されている単語の頻度数について分析した結果、次のような傾向が見られました（自由記述回答に見られた名詞を頻出度が多い程大きな文字で表示）。

（調査対象全体の単語頻出度）



（各学年における頻出名詞上位5位）

	1年次生	3年次生	4年次生
1	立地	立地	教員
2	教員	教員	立地
3	歴史	文学	歴史
4	文学	歴史	文学
5	授業	夏目漱石	夏目漱石

- 本学の学生は、本学の①立地、②教員、③歴史を自慢に思っていることが分かります。
- 学年毎の推移を見ると、最初は九段キャンパスの通学に便利な『立地』の良さに魅かれて入学して来るものの、次第に『教員』による教育内容に誇りを感じて来るようです。学生数が少ないことから、『教員』と学生との距離が近く、相談しやすい環境にあることや、丁寧な指導を受けられる点を長所として感じていることが窺えます。
- 『夏目漱石』も学んだ、143年という『歴史』の重みを多くの学生が感じながら、学問を習得している学生の様子が窺えます。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp